

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名（ 美術 ） 指導者名（ 鯨井靖子 ）

生徒の状況・課題の分析

<p>（第1学年） 図工から美術への切り替えて、色彩など専門的な知識の学習に戸惑いを感じながらも、授業の取り組み方や課題に対して、積極的に取り組む姿勢がみられ、興味関心をもって授業に臨んでいる。美術が生きるための学習であるという前提を浸透させた上で、基本的な技法、道具の使い方の指導を繰り返し行い、美しく豊かな生活を送ろうという意識を育てる必要がある。</p>
<p>（第2学年） 授業で使う道具忘れやプリント忘れ、提出物等、基本的な取り組みが十分でない生徒がみられる。また、課題に対して積極的に取り組む姿勢がみられない生徒もいれば、制作に対して意欲的になれない生徒もみられる。より高いものを求める姿勢や丁寧に作業する習慣がまだ十分ではないが、課題を理解して作業しようとする姿勢は見られるようになった。</p>
<p>（第3学年） 知的好奇心が大きいと感じられる生徒が多い。興味関心をもって授業に臨み課題に対して積極的に取り組む姿勢がみられる。授業規律も確立しており、友達の作品について積極的に良さを伝えられる。反面技術面において基礎的な経験不足がみられる点と、見える正解を求めすぎた発想をする場面での戸惑いがみられる。</p>

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> ・自ら創造し、発想する力 ・基本的な美術の知識や発想力を応用できる力

授業改善推進プラン（課題解決のための具体策）

<p>（第1学年） 生活の中での美術の役割を学習し生活に活かす姿勢を育てる。自己実現のために基礎知識、技法などを積極的に学ぼうとする姿勢を育てる。自己実現の過程で、友達作品を相互評価し、言葉にしていく。また、プリントの活用と自己評価をすることによって学習の目標を明確にした授業を展開していく。</p>
<p>（第2学年） 授業準備不足に対しては学習・作業の基本であることを継続して指導していく。全ての生徒が関心・意欲を高めていけるようにICT等を活用し、身近にある美術を利用した導入を工夫していく。創作活動に消極的な生徒に対してはプリント等で授業における自分を振り返られるような工夫をし、困っていることや難しいところなど個別に指導できるようにしていく。</p>
<p>（第3学年） 経験不足を補うべく、年間指導計画において様々な美術的な経験ができるように改善する。また、発想力育成については、発想を中心とした課題を組み、個々の発想を生かす適切な助言を工夫するなど具体的な方法をわかりやすく伝えるよう考案し、芸術作品の鑑賞を行い作品のよさや作者の意図を楽しむための資料、芸術作品の鑑賞を行い作品のよさや作者の意図を楽しむための資料を育成していく。</p>